



関連イベント情報

シンポジウム 「守り継がれてきた琉球の文化 ～琉球コレクションの成り立ちと意義について～」

10/22(土) 14:00～17:00 3階 講堂 ※事前申込制
 (パネリスト) 田名真之(沖縄県立博物館・美術館 館長)
 品川欣也(東京国立博物館 研究員)
 原田あゆみ(東京国立博物館 研究員)
 園原謙(沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)

文化講座 3階講堂 14:00～16:00 ※事前申込制

10/15(土) 上江洲安亨氏(一般財団法人沖縄美ら島財団 副参事)
11/19(土) 波照間永吉氏(名桜大学 教授)

学芸員講座「琉球一美とその背景」

11/12(土) 14:00～16:00 3階 講堂 ※事前申込制
 伊禮拓郎(展覧会担当学芸員)

ワークショップ 博物館1階 実習室 ※事前申込制

10/22(土) 09:30～12:00
 「勾玉づくり体験」山本正昭(考古担当学芸員)
11/26(土) 14:00～17:00
 「琉球古刺繍ワークショップ」琉球古刺繍保存会

展示解説会

10/15(土)、10/29(土) 11/13(日)、11/27(日)
 10/15と10/29は10:00～11:00
 11/13と11/27は14:00～15:00

「琉球歴史文化の日」関連イベント

※事前申込制
10/16(日) 10:00～11:00、14:00～15:00
 琉球の文化を学芸員と学ぶ展覧会ツアー
 ※イベントの詳細は WEB ページをご覧ください。



あなたの沖縄に出会う

沖縄県立博物館・美術館
 Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

〒900-0006
 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

Tel 098-941-8200

<https://okimu.jp/exhibition/ryukyunobi/>



会期	2022年10月14日(金)～12月4日(日) ※展示作品保護のため、複数回展示替えを行います。
会場	沖縄県立博物館・美術館 博物館 企画展示室、特別展示室1・2
観覧料	一般1,400円(1,200円)、高大生700円(560円)、小中生500円(400円) ※()内は前売料金・20名以上の団体料金
プレイガイド	ミュージアムショップゆいむい/デパートリウボウ ローソンチケット(Lコード81352)/コープあぶれ/ジュンク堂書店那覇店
休館日	毎週月曜日
開館時間	9:00～18:00(金・土は20:00まで)※入場は閉館の30分前まで

新型コロナウイルス対策について

- マスク着用をお願いします。
- 正面入口付近にサーモカメラを設置し、ご入館の際にお客様の体温を測定させていただきます。
※検温の結果、発熱が確認された場合、入館をご遠慮いただくことがございます。
※検温実施のため、出入口を正面玄関(駐車場側)のみに制限しております。
- こまめな手洗い・手指消毒にご協力ください。
- 発熱や風邪、体調がすぐれないお客様は来館をお控えください。
- 展示室内では、他のお客様と間隔を空けてご鑑賞ください。また、展示室内の混雑をさけるため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。

[主 催] 沖縄県立博物館・美術館 [共 催] NHK沖縄放送局、東京国立博物館、九州国立博物館、福岡県 [特別協力] 国立文化財機構文化財活用センター
 [後 援] 沖縄県教育委員会、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、FMレキオ、エフエム沖縄、エフエム那覇、沖縄ケーブルネットワーク

<表面:上から> 鳳凰牡丹図(部分)・九州国立博物館 | 白密陀山水樓閣人物漆絵落絵盆 | 朱黒漆樹下人物螺鈿沈金食籠・東京国立博物館(Image:TNM Image Archives) | 浅葱地窓格枝重桜文様紅型衣裳・九州国立博物館 | 首里那覇図屏風
 <裏面:上から> 沖縄県琉球国首里旧城之図(部分) | 黒漆葡萄葉鳳蝶細履・東京国立博物館(Image:TNM Image Archives) | 三彩鴨形水注・個人蔵 ※所蔵先名がない資料は沖縄県立博物館・美術館所蔵品



琉球王国450年の想いが、
今、あなたへ届く。

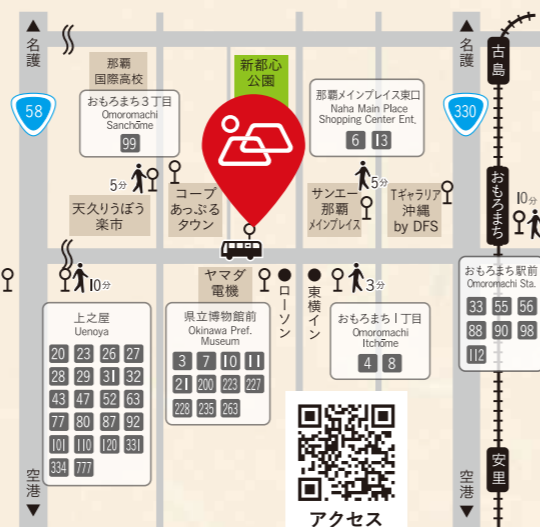
復帰50年展

琉球

—美とその背景—

令和4年(2022)
 12月4日(日)
 10月14日(金)

沖縄県立博物館・美術館
 令和4年度博物館企画展
 博物館企画展示室、特別展示室1・2



あなたの沖縄に出会う

沖縄県立博物館・美術館
 Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

復帰50年展

琉球

— 美とその背景 —

本土復帰から50年—。

様々な施策や県民の努力により、沖縄は大きく成長を遂げ、今まさに新たな歴史を歩んでいます。

小さな島の集まりであるこの地域は、古くから海を通じて様々な国と交流し、琉球王国として独自の文化を発展させてきました。その息吹は、現代に生きる私たちの生活や産業に溶け込み、様々な場面で目にすることができます。

本展では、栄華の象徴ともいべき美の世界から私たちのアイデンティティである「琉球」に焦点をあて、紡がれた歴史を紐解いていきます。復帰50年の節目だからこそ借用できた県内初公開の展示品も多数ありますので、この機会に是非ご観覧ください。

第1章

万国津梁

— アジアの架け橋 —

琉球列島の人々は、古くから日本や大陸側の人々と緩やかなつながりを持っていました。14～15世紀には進貢貿易を軸に、アジアの架け橋として繁栄した一方、外来文化を導入し、特産品を生み出していました。ここでは、琉球の美を生み出した歴史的背景を紹介します。

県内初公開

滑石製石鍋

西海市ホゲット石鍋製作遺跡出土
平安時代 11世紀・西海市教育委員会

11世紀には長崎産の石鍋が琉球列島にもたらされていました。



重要文化財 県内初公開

木簡

「伊藍嶋竹五」(左)

「奄美嶋」(右)

太宰府市大宰府政庁周辺官衙跡
不丁地区出土
奈良時代 8世紀・九州歴史資料館

奈良時代の太宰府と南島とのつながりを示す木簡。



第2章

琉球の美

国内が安定し始めると国際交流や豊かな自然をもとに多くの美術工芸品が生み出されました。それらの輝きは国内外多くの人々を魅了していきます。ここでは、琉球で育まれた美の数々を紹介します。



蛇皮線

Image:TNM Image Archives
明治時代 19～20世紀
東京国立博物館



竝木の4カ所に接ぎがあり、胴部分にべっ甲を巻いている数少ない三線。



芭蕉を藍で黒く染め、鮮やかな絵を描いた琉球国内でも珍しいノロの衣裳。

重要文化財

朱漆花鳥密陀絵 沈金御供飯

©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
〔第二尚氏時代 15～16世紀・徳川美術館〕
徳川家康から尾張徳川家に形見分けされた琉球漆器。



琉球の美術工芸品として
唯一国指定になっている作品

県内初公開

獅子黄金簪

〔第二尚氏時代 15～16世紀・個人〕
三司官を多数輩出した名門・池城殿内伝来の簪。



第3章

しまの暮らしと祈り

琉球の人々は、豊かな自然がもたらす恩恵を享受し祈りを捧げつつ、その土地に根ざした多様な文化・風俗を育んできました。ここでは、しまの人々の暮らしと祈りを通して、琉球王国を下支えしてきた人々の美への世界観を探ります。



琉球国奇観

〔江戸時代 19世紀・東京国立博物館〕
薩摩から見た琉球風俗を残す奄美を紹介した巻物。

タマハベル

Image:TNM Image Archives
〔第二尚氏時代または江戸時代 18～19世紀
東京国立博物館〕

奄美大島のノロ「オヤノロ」を輩出した大和家伝来の品。



沖縄県内では約20年ぶりの公開!



ノロの図

〔第二尚氏時代 19世紀
東京国立博物館〕
琉球王国の神女であるノロの姿を描いた数少ない絵画資料。